



あおもり 町連だより

第225号

令和5年4月発行
青森市町会連合会
〒030-0801 青森市新町一丁目3-7
TEL 017(734)2584
FAX 017(734)2587

そのとき 備えは自主防災組織

地域振興部会が勉強会

日本各地で近年、地震や津波、風水害が多発しています。県内でも昨年、長雨による道路や河川の決壊による災害が起きており、他人事では済まされません。

災害時に国や県、市などの「公助」はもちろん、地域の防災力を高めるものとして、自分の身は自分で守る「自助」と地域や近隣の人が互いに助け合い、協力し合う「共助」の重



要性が増しています。

地域の防災力の要となるのが自主防災組織です。被害を予防し軽減することを目的とし「防災教育や要支援者の避難支援、避難所の運営」にあたります。

しかし青森市の結成状況は407の町会・町内会に対し半分の196(令和4年3月末)と48.2%です。全国の84.4%、

県内の55.8%(ともに活動範囲の世帯数。同3年)と比較して見劣りしています。

町会連合会の地域振興部会は令和4年度事業の柱に「災害に備えて自主防災組織の設立増強運動」を掲げてきました。

1月26日には油川市民センターで北部第一区連合町会を対象に自主防災組織設立に向けた勉強会＝写真左＝を開き、市の総務部危機管理課が講師を務めました。

阪神淡路大震災のケースでは倒壊した家屋からの救助活動をみると、公助は2%足らずで、ほとんどが自助66.8%、共助30.7%だといえます(危機管理課)。

町会からは「アパートが多く参加呼び掛け自体難しい」という声も。危機管理課の担当者は設立の必要性をわかってももらえるよう、勉強会など機会があれば出向くので声を掛けてほしいと呼びかけていました。



▲【学校安全総合支援事業】

青森市は令和4～8年度まで市内19の中学校区すべてで学校、地域、関係機関が連携する避難所運営訓練を実施します。4年度は写真上からファミリーテント(荒川)、段ボールベッド(東)、防災グッズ工作(北)などを学びました。

種が芽吹く年に

市政懇談会を開催

市政懇談会が今年1月18日、しあわせプラザで開かれました。昨年はコロナ禍で中止しており、2年ぶりの開催。小野寺晃彦市長をはじめ、市幹部が出席しました。

小野寺市長はこれまでの市政運営を振り返り、①雪対策として工区の増設、流・融雪

溝の整備など強化②ワクチン接種率の高さにみるコロナ対策③プレミアム商品券、出産・子育て応援給付金、小中学校の給食費無償化、創業・移住の推進にみられる賑わい—といった、街づくりの種が芽吹く年になると語りました。

町連からは副会長の松本勝義、岩淵壽満、横山芳信、葛西清光、片桐孝の5氏が企業誘致や未来のまちづくり、閉



館となる棟方志功館がある松原地区の将来像、建設中のアリーナの利活用などを巡り、市の考え方を聞きました
＝写真。

水切り袋で減量

環境部会が街頭宣伝

ごみの減量化に取り組む環境部会は令和4年12月12日、アウガ1階のエントランスで生ごみ用の紙製水切り袋を配り、市民にごみ減量への協力と呼び掛けました＝写真。

環境部会の提唱は、青森市が掲げる燃えるごみの削減目標に対し、市民一人が毎月40

グラム、キュウリ1本分減らすだけで実現できるという。そのためにも80%が水分という生ごみをぎゅっと絞ること。ごみは軽くなり、収集車



の燃料を軽減でき、焼却も効率アップします。

大科武雄副部会長や神保和則部会員、佐々木重光町連会長らが「この水切り袋を使っ

て減量」「しっかり分別、がっちり削減」と往来の市民に声を掛けて配布。紙製の水切り袋を初めて手にした人も多く「水を切ったら、そのままごみ箱に入れるだけ。使ってみます」と答えていました。

金魚ねぶた作り

町会イベントに活かす

女性部会は令和4年10月12日、男女共同参画プラザで金魚ねぶた作りの勉強会を開き



ました。

講師は内閣府エイジレス章を受け、金魚ねぶたの普及に努めている白川登さん。部会長の木村常子さん(橋本南第二)ら6人が参加しました
＝写真。

骨組み、紙貼りの下準備が整い、色付けと房飾りなどが残されているだけでしたが、やってみるとこれがなかなか大変。筆が走って思わぬところに赤色が広がったり、房がきれいに開かなかったり。

白川さんは冗談を交

えながら、「大丈夫。手と頭を使うから若返る」とみんなを励まし、会場には終始笑い声が響きました。

ここで覚えた金魚ねぶた作りを町会のイベントなどに活かしていくそうです。

訃報

中部第5区 長島町会
町会長 森谷 至里 殿
令和4年12月16日ご逝去

中部第6区 勝田第二町会
町会長 塩原 順 殿
令和5年1月29日ご逝去



玉川町会

町会長 千代谷 義治

創立50周年迎える

当町会は、市の南部中央地区で浜田玉川を中心に観光通りを挟み東南部と西部に分かれ約400世帯で構成されています。昭和48年(1973年)11月に創立、今年で50周年を迎えます。

「挨拶でみんな笑顔、高齢者にやさしい」をスローガンに、女性部、玉川あすなろ会(老人クラブ)、社会福祉部、環境衛生部、防災部、文化部、広報部の各部会が活動しています。

多彩で活発な部活動

女性部は、春と秋の研修旅行や清掃活動、各種研修会を毎年欠かさず開催。玉川あすなろ会も研修旅行や清掃活動、市老連のスポーツ大会等の行事に毎回参加しています。

社会福祉部は、民生児童委員が高齢者・障害者・児童・母子世帯などの相談支援、社協の敬老のつどい等の行事への協力等を行っています。

環境衛生部は町内に設置した14カ所15基のゴミ収集箱の維持管理を中心に、町内の環境整備に努めています。



サンロード青森盆踊り大会



民生児童委員の見守り活動



町内清掃活動の参加者たち

防災訓練実施を検討

防災部は町会員の防災意識向上を図り、自主防災に取り組むため、令和元年度に防災会を設立し防災倉庫を設置。昨年の研修会に続き、防災訓練の実施を考えています。

文化部では、日帰りバス遠足等のレクリエーションを毎年開催していましたが、コロナ禍で令和2年から中止となり、今年こそは再開したいと願っております。

広報玉川やHPも

広報部は、「広報玉川」を作成し平成14年から発行。当初は月1回発行していましたが、現在は3～6ヶ月に1回となり、昨年11月に111号を発行。また、平成16年にはホームページを開設し、新着情報をその都度更新しています。

50周年を目前にして、40年以上続いた子ども会が解散しました。加入者減少と指導者の後継者難によるもので非常に残念です。

さて創立40周年記念式典・祝賀会は平成25年10月に青森県信用組合本店で盛大に開催しており、今年の50周年記念事業をどのように実行するか、みんなで考えていきたいと思います。

(広報部長伊藤孔さんがまとめました)

ホームページをご覧ください

青森市町会連合会のホームページは町会の広報紙も掲載しています。パソコンでもスマートフォンでもご利用いただけます。アドレスは次の通りです。
<https://aomori-choukairen.jp>

下記QRコード
からもアクセス
できます



いにしへの「地名」「通り」を知ろう

近現代編⑦

大林区署の移転で発展した大福町

沖館川の近くに移転した青森大林区署
(青森県所蔵県史編さん資料)

大福町は篠田1丁目～3丁目の一部と柳川1丁目～柳川2丁目の一部を指す町名(通称)で、現在は町会名として使われています。

この町名は大正8年(1919)頃、工藤義晴・古川才太郎・岡本亥作・羽賀新吾・風晴善太郎・鎌田伸太郎の6人が相談して名付けたもので、「大(大林区署)」とともに「福」が訪れたという意味があります(大福町会創立50周年記念誌『わが町』1986年)。

青森大林区署の移転

大林区署とは明治19年(1886)に誕生した森林行政を担う機関です。当初は全国に21の大林区署が置かれました。その後、大正13年に営林局と改称し、平成11年(1999)に森林管理局へ移行しています。

青森大林区署は明治19年、新浜町(現本町)に庁舎を置きました。その後、明治36

年に浦町(現橋本)の新庁舎へ移転しますが、明治40年に火災により庁舎を焼失しました。

この頃、沖館川の河口に木材を集積する青森貯木場が置かれてい

たことから、大林区署はその近くへ移転することになりました。

新庁舎は明治41年に完成しました。大林区署が移転すると、周辺には製材所が設けられるようになり、町は大きく発展しました。

なお、明治41年に完成した庁舎は業務拡張に合わせて増築され、昭和54年(1979)まで使われました。昭和57年からは青森市森林博物館として活用されています。

松前街道の変化

大林区署庁舎の建設により、周辺の道路は大きく変わりました。大福町を通り北へと延びる国道280号は、藩政時代に松前藩主が参勤交代で通ったことから松前街道とも呼ばれています。現在は森林博物館の前を通っていますが、大林区署の移転前は現在より北側に道路がありました。

村上 亜弥編集委員
(市民図書館歴史資料室)

庁舎建設により従来の松前街道は大林区署の敷地内を通ることになったため、南側に新しい道路が設けられたのです。

大福町にあった女学校

大福町には女学校もありました。それは青森営林局の向かいにあった私立昭和女学校です。昭和3年4月、油川出身の教員・柿崎平蔵によって開設された学校で、現在の古川小学校の位置にあった旧市立図書館の建物を移築し、校舎として使用していました。

昭和4年12月に沖館尋常小学校(現沖館小学校)が火災のため校舎を失った際には、昭和女学校が教室を提供したそうです。

なお、昭和女学校は昭和6年に浦町へ移転し、昭和8年度に閉校しています。



青森大林区署と松前街道(明治40年頃「青森市全図」歴史資料室所蔵、筆者加筆)